

ツバメ（ツバメ科） 全長17センチ

ツバメは農作業小屋や車庫、民家の玄関などで巣作りするなど、古から益鳥として人間と深くかかわりあってきた野鳥です。スズメと共に、ツバメの数がかなり減って来たと言われる。

これは近年の住宅事情の高気密化が進み、巣作りできる環境が大きく変わってきたことが原因ではないかと言われている。

8月下旬、神宮寺の大浦沼で50羽以上のツバメが飛び交っていた。

雨上がりの曇り空。水面すれすれを飛びながら昆虫などの餌を狩っているようだ。沼岸に生えるヨシ原から、次々とツバメが飛び出してきた。繁みの中にはかなりの数が隠れているようだ。



大きく揺れる穂先に止まる。

今の時期は巣立った雛と共に群れを作り、夜のねぐらとしてヨシ原で休んでいるのでしょう。高速で飛ぶツバメの撮影はかなり難しく、ヨシの茎で休んでいる所を見つけた。体の色が淡く見えることから幼鳥です。



近くの電線にも仲間が。



どこかあとけなさが残る幼鳥。

風に大きく揺れるヨシ原であったが、必死に捕まり飛び立とうとはしません。親が運ぶ餌を待っているのでしょう。

ねぐらに集うツバメの群れを見られたのは幸運でした。



バランスを取りながら必死にくらいつく。



尾羽の斑点がきれいに並んだ。